

あいちの印刷

4

2012.4
No.485



木島平村のなのはな

もくじ

巻頭言 「社長の思いを伝える一番の方法とは」 ／副理事長 鳥原久資	3
中部地区印刷協議会 平成23年度下期会議(愛知県会議)開催	4
官公需対策の動向	7
新印刷会館竣工記念セミナー	8
身近な催し物のお知らせ	9
「あいちの産業廃棄物」	10
日印産連／GP資機材認定製品を追加	11
Print Next 2012 「未来の印刷」大賞	11
「成長戦略総合支援プログラム」(商工中金)の創設.....	12
第3回ポスターグランプリ 募集要項	13
西川コミュニケーションズ(株)西川一男氏逝去 ／事務局だより.....	14

巻頭言

「社長の思いを伝える一番の方法とは」

副理事長 鳥原 久資

昨年の新入社員研修でコミュニケーションの講師を務めていただいた国際後継者フォーラムの二条彪さんのメルマガで「遅刻の真理」について書かれたものがあります。二条さんいわく、「どんなセミナーでも講演会でも会議でも、必ず遅刻してくる方はいるもので、最初から全員揃っているという事はまずない」と。そしてこうした人たちには「迷惑をかけて自分に関心を持ってほしい」、「自分は他人と違う」という優越感を秘めた深層心理が働いているといいます。

「経営者にとって遅刻は致命的だ。」と二条さん、なぜなら時間を守れないほど「決める力が弱い」からだと言います。また遅刻が絶対にダメと声高に言っているのではなく、経営に携わるものが、こうした行動を無意識にしていることに大きな問題があるといいます。

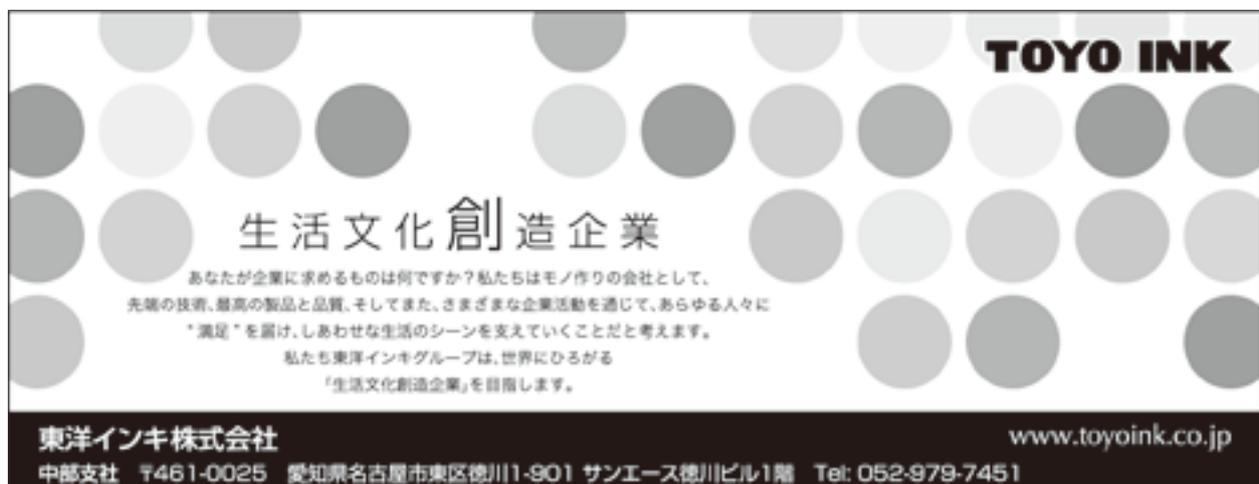
このメルマガ掲載後に二条さんと会う機会がありました。相当大きな反響だったそうです。そしてその反響には「社員がこうした行動をとった場合、当然のごとく指導をしますが、一步会社を出たとたんに我々自身が平気でそういったことをしていないかと深く反省しました。」という内容が多数寄せられたそうです。

遅刻に限らず、会議や研修中に平気でメールをしたり、途中で何度も席を立ったりという姿

を見かけます。ところが我々社長に指導してくれる人は誰もいません。寄せられた感想にあるとおり、確かに社員には律することを要求しながら果たして自分はどのようなだろうと。実は私も自戒の意味も込めて2月29日、自身のブログにこの話題を取り上げました。これまた多くの方から反響があり、なんと普段リアクションのない社員からも「社長読みましたよ!!」と。社員が反応をするという事はそれだけ社員もそうした目で私を見ているのだと感じます。

社長に物申す社員はいません。たとえ腹の中で思っている、社長に面と向かってダメだしをする社員は絶対に!! いないと思います。売り上げだ、利益だという事も大切ですが、まずは経営者としての我々の普段の姿勢をみせることが実は社長の思いを伝える一番の近道ではないかなと思います。

おりしも4月はフレッシュマンの季節。組合では昨年に引き続き新入社員研修が実施されています。社会人としての第一歩をしっかりと育てたいという思いでスタートしたこの研修。緊張して受講しているフレッシュマンからは先の遅刻やメールチェックはありません。今年も半年間にわたる研修ですので、一度ぜひご覧ください。間違いなく彼らの真剣さから学ぶものがあると思います。



TOYO INK

生活文化創造企業

あなたが企業に求めるものは何ですか？私たちはモノ作りの会社として、
先端の技術、最高の製品と品質、そしてまた、さまざまな企業活動を通じて、あらゆる人々に
“満足”を届け、しあわせな生活のシーンを支えていくことだと考えます。
私たち東洋インキグループは、世界にひろがる
「生活文化創造企業」を目指します。

東洋インキ株式会社 www.toyoink.co.jp
中部支社 〒461-0025 愛知県名古屋市東区徳川1-901 サンエース徳川ビル1階 Tel: 052-979-7451

■中部地区印刷協議会
平成23年度下期会議（愛知県会議）開催



全印工連の事業、課題などを討議

キーワードは、「新しい価値の創造」「変化と変革を迫り及する組織風土の構築」「業態変革はエンドレス」

中部地区印刷協議会・愛知県会議

中部地区印刷協議会（四橋英児会長＝岐阜県印刷工業組合理事長）の平成23年度下期会議（愛知県会議）が、2月17日午後1時より、キャッスルプラザで開催されました。愛知県会議には、全日本印刷工業組合連合会（全印工連）水上光啓会長ら来賓、愛知、

岐阜、三重、富山、石川5県の印刷工組の役員ら53名が参加しました。全体会議（前半・後半）、分科会をとおして全印工連が推進している事業、そして地区協、各県工組の課題などを議論し、今後の事業展開に向け、意見の集約、意思の統一を図りました。

次世代における印刷産業の
新しいビジネスモデルを調査

愛知県会議は、午後1時より開始され、司会は加藤修事務局長（愛知県印刷工組専務理事）が務めました。

冒頭、木野瀬吉孝副会長（愛知県印刷工組副理事長）が開催挨拶を行った後、四橋会長が挨拶に立ち、次のように述べました。

「昨日、愛知県印刷工業組合の新会館竣工祝賀会

がありました。メディアージュ愛知と名付けられた素晴らしい会館が建てられました。この新会館を起点にして、これからますます発展されることを期待しております。

さて、本日来賓として出席されて見えます水上会長が、今期で退任されます。4年間、私どものリーダーとして引っ張っていただきました。また、岐阜の全国大会（『2010全日本印刷文化典in岐阜』）も水上会長のおかげで開催することができました。何よりも水上会長は『ミスター業態変革』です。4年間、本当にご苦労様でした。

今、業界は大変厳しい状況に置かれています。昨年は過去最大の倒産件数と過去最大の負債額が発生しました。倒産の共通している点は、下請け、輪転、そして、超安値です。最近申しあげていることは、伸ばすときもあれば少し縮こまる時もあるということです。“入るを量りて出ざるを為す”という諺があります。やはり、収支のバランスを正しくとり、身の丈を知り、無茶な投資をせず、適正価格で受注する。これをまっとうし、自助努力で困難を



挨拶する
木野瀬愛印工組副理事長



挨拶する四橋中部地区協会会長

乗り切っていただきたいと思います」。

次いで、来賓を代表して水上会長が次のように挨拶しました。

「2012年は率直に申し上げれば、我々が印刷の舞台に残るか、降りるかという、それくらいの覚悟を持って臨まなくてはいけない年だと思っています。

全印工連は、8年間にわたって皆様に業態変革を提唱し続けてきました。この3月で、本部からの業態変革の情報発信は止めます。しかし、業態変革には始めも終わりもありません。組合員企業各社が、それぞれ業態変革を自社の中に取り入れ、推進していただきたいと思っています。8年間種まきをしました。これから業態変革に必要なことは、実践、実行しかありません。

業態変革といいますと、ともすると何か大きなビジネスモデルを変えなければいけない、と思われる方もおられます。しかし、大きな変革などできません。大きな変革ができるのはウルトラセブンだけです。私たち庶民は、ウルトラセブンでも何でもありません。本当にできる変革というのは、コツコツと地道に一つずつやることだと思っています。そして、本業できちんと利益ができる体質を作り、その利益の1割でも次世代のビジネスモデルに投資する。これが必要なことではないでしょうか。

いうまでもなく印刷業は、製造業であり、サービス業であり、情報産業です。でも、私はこういう厳しいときだからこそ、改めて原点回帰をする。やはり「ものづくり」は非常に大切だと思います。我々印刷業がものづくりを軽視するという、愚を犯してはならないと思っています。

全印工連が実施している事業に『平成23年度我が国情報経済社会における基盤整備（印刷産業におけるビジネスモデルの調査研究事業）』があります。これは次世代における印刷産業の新しいビジネスモデルの調査、研究です。二つの部会に分かれ、一つは欧米における最先端のWeb to Printのビジネスモデルの研究です。二つ目は地域活性化です。こちらは高井副会長にお骨折りをいただいております。素晴らしい結論が出てくるとしますので、ご期待ください」。

■全体会議・前半

全体会議に移り、冒頭、水上会長が全印工連会長メッセージを述べました。メッセージの中で、「2008年のリーマンショックが大きな転換点とな



来賓挨拶をする
水上光啓全印工連会長



事業概要を説明する
池尻全印工連事務局次長

りました。そして昨年の震災・津波・原発ですべてが変わり、もはや従来のビジネスモデルでは通用なくなっています。一体、何をすればいいのか、それは、「新しい価値の創造」「変化と変革を追求する組織風土の構築」「業態変革はエンドレス」など、これからの経営に必要なキーワードを説明しました。

〈全印工連事業概要説明〉

続いて、全印工連事務局の池尻淳一次長が、全印工連の推進している事業概要を説明しました。

①業態変革推進企画室の事業推進、印刷産業ビジョン研究会の事業推進について／「業態変革実践マニュアル」の販売状況、2012印刷産業ビジョン研究会研究成果報告書「THE SOLUTIONS」発行の報告と共に内容を説明。

②産業戦略デザイン室の事業推進について／アライアンスの一部として商工中金と連携して、新しい融資制度を創設。成長戦略を立てれば設備資金や運転資金の融資が受けられる点を説明。

③暴力団排除条例への対応について／暴力団排除について真っ先に取り組んだ兵庫県印刷工業組合では、ステッカー、宣言文を作成し全組合員に配布。暴力団の仕事は受けたくないという徹底化を図っている。東京都、神奈川県では暴対法のセミナーを実施、全国の組合の対応事例を報告。

④資材動向について／インキ、製版フィルム、用紙などが立て続けに値上げが行なわれた。今、用紙動向の調査を実施している。3月下旬にはその結果を日本の印刷で発表。

⑤技能五輪全国大会の開催要望について／大会への代表選手の選考の仕方について、他の業種では国内の全国大会を実施し選抜しているが、印刷では全国大会がない。そのため、技能検定を絡めた形で国内の選考大会を行い、その優勝者を日本の代表選手とする、ということで、今現在、教育・労務委員会で、日印産連、厚生労働省と調整を進めている。

⑥MUD事業の推進について／5回目のコンペティションから経済産業大臣賞の授与が決まった。大臣賞を受けられることは大変名誉なことであり、会社の信用力にも繋がる。まだまだ作品の応募が少ないので、6回目のコンペティションには大勢参加をいただきたい。

⑦平成22年工業統計確報と印刷業経営動向実態調査結果について／工業統計の確報（4人以上の事業所）は、出荷額は6兆円をキープしたが、対前年比では2.1%のマイナスである。事業所は6.3%、付加価値額は3.3%、現金給与額は4.4%それぞれマイナスである。印刷産業経営動向実態調査では、一人当たりの対前年比売上高3.6%、加工高3.5%マイナス、ただ、経常利益率が昨年の1.9%から2.0に持ち直している。

⑧経済産業省調査研究事業の進捗状況について／今回の調査は、アメリカ・ロスアンゼルスとカリフォルニアのWeb to Print 6社。国内調査は、6地区16社を回った。国内外とも内容の濃い調査ができた。来月には報告書が提示できる。

⑨官公需における印刷物仕様書共通フォーマットについて／全国で使えるフォーマットについて検討を重ねてきた。その中で、岐阜県工組の仕様書が漏れなくきちんとできているので、これを元に、全国の共通フォーマットを考えて行きたい。

■分科会

分科会・理事長会は午後2時45分より開始され、池尻次長の説明を受ける形で、全印工連が推進している事業、そして地区協、各県工組の課題などについて討議しました。

■全体会議・後半

全体会議・後半は午後4時10分より開始され、各分科会で議論された内容が報告されました。各分科会の報告内容は次のとおりです。

〈経営革新・マーケティング委員会＝吉田克也副委員長（石川県印刷工組常務理事）〉

経営羅針盤の配布状況／印刷産業経営羅針盤セミナー及び1日経営ドックセミナーの開催／マーケット創造（新市場創造）の研究／「平成23年度印刷業経営動向実態調査」の結果報告

〈環境委員会＝山添克治委員長（三重県印刷工組副理事長）〉

必ず儲かる環境対策セミナー／第11回印刷産業環

境優良工場表彰への申請協力／環境対応型オフセットインキ製品一覧／平成24年度グリーン購入法・調達の見直し／GP認定工場の募集及びインターネットを活用したISO14001取得支援事業の参加募集

〈組織・共済委員会＝楠行博委員長（富山県印刷工組常務理事）〉

平成22年度組合員台帳集計結果／各共済制度加入状況／生命共済制度の更新処理／医療共済制度

〈教育・労務委員会＝松岡祐司委員長（愛知県印刷工組理事）〉

全印工連特別ライセンスプログラム事業の推進／企業改革のための情報の提供「見える化から始める収益改善」／制度教育の実施、技能五輪全国大会の開催要望

〈取引公正化委員会＝鈴木岳志委員長（岐阜県印刷工組理事）〉

印刷物仕様書共通フォーマットの作成／最低制限価格制度導入の動き／「競り下げ方式」の動向

〈理事長会＝永野博信副会長（石川県印刷工組理事長）〉

暴力団対策のセミナー開催／ポスターグランプリの中部全域での開催検討／MUDを取り入れたポスター展の作品募集の検討

各分科会報告のうち、教育・労務委員会の松岡委員長は、全印工連特別ライセンスプログラム事業に関連して、フォローアップ（テクニカル）セミナーへの参加を要請しました。また、環境委員会の山添委員長は、「必ず儲かる環境対策セミナー」「GP認定工場」「印刷産業環境優良工場」への参加、取り組みを要請しました。取引公正化委員会の鈴木委員長は、官公庁の一般競争入札における「競り下げ方式」が最低制限価格制度と相反すると指摘。競り下げ方式導入の回避・阻止が求められていると強調しました。

分科会報告後のまとめの中で四橋会長は、最低制限価格制度について次のようにコメントしました。

「最低制限価格制度の問題で、『我々はコストを下げる努力はします。ただ、プライスは必要以上に下げることはしません』ということで推進しています。県が最低制限価格制度を導入したところは、それで終わりではありません。ぜひそれを市町村にまで波及させていただきたいと思います」。

最後に、塚本征也副会長（三重県印刷工組理事長／次期開催県）が閉会の挨拶を述べ、全体会議・後半は終了しました。

木野瀬吉孝副理事長に官公需対策を聞く 地方自治体の印刷設備、競り下げ方式、ダンピング

印刷需要の中で大きな位置を占める官公需。しかし、そこでは印刷業界に大きな打撃を与える問題が起きてい

ます。組織・官公需委員会を統括する木野瀬吉孝副理事長に官公需の問題と対応を聞きました。

—地方自治体が内部に印刷機を設備していることに対して、どのような見解をお持ちでしょうか—

地方自治体が印刷機を保有しても、業者委託に比べ大きなメリットがあるとは考えられません。それどころか、人件費・設備の償却費（またはリース代）を勘案したら、デメリットの方が大きいと思います。もし、自治体の方が効率的な運用をしていたら、我々の方が反省をしなければなりません、そんなことはあり得ないでしょう。

—地方自治体が内部に設備する印刷機の廃棄を組合として地方自治体に要望すべきではないか、という意見をどのように思われますか—

愛知県には、以前から印刷機の廃棄を求め、その結果、現在では新機の導入は行われていません。基本的には順次廃棄されているので、今後はほとんど無くなると思います。しかし、現在でも多くの地方自治体で印刷機は稼働しています。これらの廃棄を求めるには、まずは地方自治体に機械の導入価格と稼働率、およびそれに伴う人件費の開示を求める必要があります。なぜなら、そのことで必ず官の非効率を実証できるからです。

それと同時に、「民間でできるものは民間で」という、基本的な姿勢を明確に求めるべきと考えます。組合で要望書を作成するのは容易なことですが、支部を通じて（個別でも結構ですが）こうした地道な活動を展開することも必要です。方法に関しては、次年度以降の担当委員会で提示できるよう努力します。

—「競り下げ方式」による入札を実施した厚生労働省に対し、木野瀬副理事長が個人的に抗議文を送られたとのことですが、その結果はどうなったのでしょうか—

これについては、3月中に何らかの返事をするとのこ

とです。回答が来次第、その内容を報告したいと考えています。

—「競り下げ方式」にはどのような問題があるとお考えでしょうか—

競り下げ方式自体が、企業努力を無視した悪しきシステムです。国がデフレ脱却を目指しながら、逆にデフレを助長するような競り下げ方式は、絶対に認められません。また、万が一こんな方式が民間にも導入されるような事態を迎えたら、デフレに拍車をかけてしまいます。

—官公需対策の活動方向に関して、具体的には、愛知県への最低制限価格導入の働きかけを第一とするのでしょうか—

愛知県には当初他県工組と同様、100万円以上の入札案件に対して最低制限価格を導入するよう働き掛けてきました。しかし、実際は印刷物の100万円以上の入札案件は非常に少なく、県の印刷物のダンピング化の歯止めにならないことが分かりました。

現在問題になっているのは、日常の定時見積のダンピング価格なので、そのことの歯止め策を県と協議してきました。その第一歩として、定時見積で受注した業者に対して、見積積算を県に提出させ、価格の妥当性を県に検証してもらうことを目指しました。県には、そのことの是非を問うアンケートを業者に実施してもらい、賛成多数で実施することになりました。まずは、県の積算基準と大幅に違っている業者に聞き取りをし、ダンピングの歯止めを県当局にしてもらうところから始めます。

実際、信じられないような価格で落札されており、組合では県との連携を深め、ダンピング価格撲滅のため、粘り強く交渉をし続けるつもりです。

オフィスに店舗に工場に、「LED照明」をご提案いたします。

私たちは、
地球にやさしい商品とサービスの提供を通して、
心豊かな社会の実現に貢献します。



株式会社 アクスアス

本社所在地 〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目25番35号
紙営業本部 TEL.(052)220-5511 IP電話(050)3533-5511 FAX.(052)220-5522
Home Page <http://www.axuas.jp> / E-mail info@axuas.jp

「LED照明器具」の販売を始めました。

「LED照明」は地球環境にやさしい照明です。
聞いてはいるがよく判らないという方のために、
本社1階にショールームを開設いたしました。
ぜひ一度、体験して下さい。

オフィス、店舗、倉庫、工場の照明をはじめ、
ディスプレイや電飾看板にも使えます。
必ずやお客様へのヒントがそこにあるはずです。

心よりお待ち申し上げております。
(紙営業本部 環境ソリューション事業部)

■新印刷会館竣工記念セミナー

組合員企業の社員を対象に勉強会開催

「プリプレス」「プレス」「ポストプレス」各分野の現状と方向



モリサワ
／山崎雅秀課長



ハイデルベルグ・ジャパン
／佐藤麻衣子部長



ハイデルベルグ・ジャパン
／曾篠靖之氏



ホリゾン西コンサル
／真木裕之課長

愛印工組は、新印刷会館『MEDIAGE Aichi（メディアージュ愛知）』の竣工記念事業の一環として、2月18日午前10時より、メディアージュ愛知・大会議室（3階）で、組合員企業の社員を対象とした竣工記念セミナーを開催した。竣工記念セミナーは、プリプレス部門、プレス部門、ポストプレス部門の3部で構成され、延べ参加人数は120名を数えた。

この竣工記念セミナーは、組合員企業の社員に最新の経営・技術情報を提供するとともに、一人でも多くの社員にメディアージュ愛知を実際に見てもらうことを目的に企画、開催されたもの。

竣工記念セミナーでは、次のメーカー3社がそれぞれのテーマで講演した。

▼プリプレス部門：「電子書籍など、新しいメディアの作り方、使い方」(株)モリサワ・山崎雅秀氏（サポートセンター課担当課長）

講師の山崎氏は、「①書籍出版市場を知る、②電子出版市場を考える、③電子出版を作る前に、④EPUB3.0とは、⑤電子書籍に取り組む、⑥モリサワの取り組み、⑦モリサワの新製品」について解説した。この中で、野村総合研究所が行った予測を紹介。「2015年には、①ネットビジネスにおけるモバイル率が25%に拡大、②電子書籍端末の国内累計販売台数が1,400万台に、③電子書籍コンテンツ市場は2,400億円規模に、④データセンター市場が約1.7兆円に。2020年には、①クラウドコンピューティングが累計40兆円の新市場を創出、②アジア域内の電子商取引が1,000兆円の市場規模に拡大」。

▼プレス部門：「新時代における紙メディアの価値を考える」ハイデルベルグ・ジャパン(株)・佐藤麻衣子氏（プロダクトマーケティング部長）／「リーン生産方式による利益率改善」同・曾篠靖之氏（プ

**PP貼りサービス始めました
PP貼りだけの仕事やります**

制作から印刷・製本・発送まで自社一貫体制

- ◎カラーもモノクロもページものの印刷得意です
- ◎菊全シルバーマスターでのページもの印刷もできます
- ◎厚紙パッケージ菊全4色印刷始めました

大日印刷株式会社

☎0564-62-8461(代)

幸田工場 額田郡幸田町大字坂崎字石ノ塔46-1 FAX(0564)62-8463

紙でご愛顧50年

印刷用紙専門商社

メイカミ

名古屋紙商事株式会社

社長 長谷川 志

名古屋市東区主税町4-83 〒461-0018
TEL.052-931-2221(代) FAX.052-932-1418
豊山加工センター 愛知県西春日井郡豊山町豊崎
TEL.(0568)28-2049

ロダクトマネジメント印刷・後加工課)

講師の佐藤氏は、「①紙メディアの持続可能性、②紙メディアの効果、③お客様にとっての価値」などについて触れ、「紙と印刷は将来があるメディア」と結んだ。

曾篠講師は、リーン生産方式について解説。その中で「製造工程における無駄を排除することを目的として、製品および製造工程の全体にわたって、トータルコストを系統的に減らすことを狙いとしたのがリーン生産方式」であり、「日本の自動車産業で注目された、ジャストインタイム生産システムに代表される無駄を徹底的に排除したトヨタ生産方式。トヨタ生産方式では7つの無駄を定義し、それらを減らす、無くすことに注力している。この方式では、無駄を“会社という名の巨人”についた贅肉と見立て、贅肉の取れたスリムな状態で生産活動を行うことを目指す生産方式として構築された。そして、贅肉の取れた意味である英語の lean(リーン)を用いてリーン生産方式と命名された」と説明した。

▼ポストプレス部門：「ポストプレスメーカーから見た印刷市場の現状と課題」(株)ホリゾン西コンサル・真木裕之氏(第二営業部課長)

講師の真木氏は、「①刷って儲かる時代は終わった、②デジタル印刷機を有効活用するには」の2つの視点から解説。この中で、印刷会社を取り巻く環境について触れ、「仕事量の減少」では、「①ロット自体の減少、無駄を作らない生産体制、②電子化による出版物の減少、③プリンターの増加でクライアントが容易に印刷できる環境、④設備を持たない印刷会社の増加とネット受注方式の印刷会社の成長」を指摘し、「印刷会社のますますの合理化が求められる」とした。「低コスト化」では、「①受注金額の減少、②材料費、紙代などの上昇に伴う利益の圧迫、③仕事の絶対量の減少による競争の激化、④償却の終わった機械、中古機の増加による機械コストを無視した価格設定」を指摘し、「オペレーターの



●身近な催し物のお知らせ(愛印工組関係)

開催日時	事業・行事、場所、備考	
4月3日(火) ～ 9月27日(木)	事業・行事 ところ	印刷業界の新人社員研修会 MEDIAGE Aichi (前 愛知県印刷会館)
	※開催教科の内容及び実施日程は組合ホームページでご確認ください。 http://www.ai-in-ko.or.jp ※1講座毎のお申し込みも受け付けております。 ※新入社員向けの内容ですがどなた様でも受付させていただきます。	
5月18日(金)	事業・行事 ところ	平成24年度 通常総代会 名古屋観光ホテル ※現職及び新任の理事・総代の方はご出席をお願い致します。
6月15日(金) 10:30～ 12:00	事業・行事 ところ	ゼロから始める“見える化”セミナー じばさん三重(三重県四日市市) 参加費:組合員2,000円/1人 一般3,000円/1人 申込期日:平成24年6月8日(金) 定員:90名
7月24日(火)	事業・行事 ところ	アドビテクニカルセミナー ウインクあいち 参加費:購入社は購入人数まで無料、他は5,000円/1人 未購入者 5,000円/1人(予定) 定員:90名 申込期日:平成24年7月13日(金) ※近日中にFAXでご案内発信予定

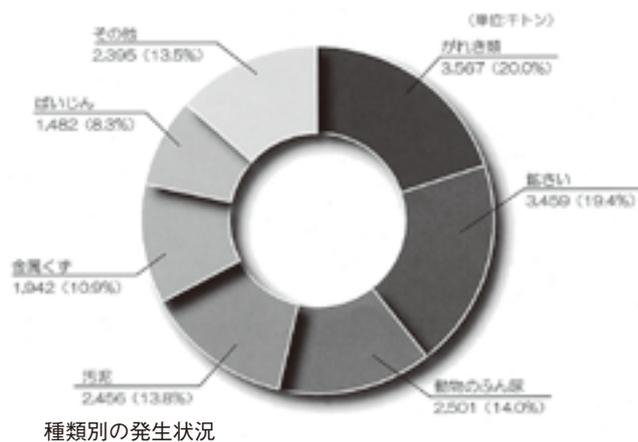
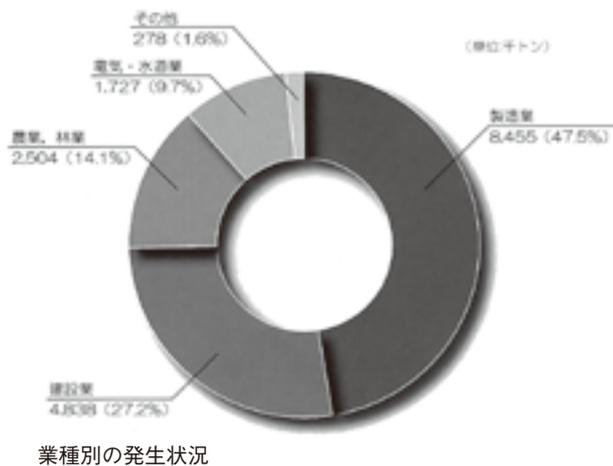
●身近な催し物のお知らせ(関連団体)

開催日時	事業・行事、場所、備考	
6月15日(金) ～ 16日(土)	事業・行事 ところ	中部地区印刷協議会 24年度上期会議 四日市都ホテル (三重県四日市市安島1-3-38) 詳細調整中

パート化、アルバイト化、セット替え時間の短縮などによる生産体制の強化」をあげた。さらに、「小ロット、短納期化」では、「設備の最適化が必要。大ロットの設備で小ロット物を生産しても効率が悪く儲からない。仕事内容、ロット、オペレーターのレベルにあった生産体制が必要」と指摘した。

製本機機の選定については、「現状、多くの製本機器はオフセット印刷を想定しており、印刷方式、目的により、機種を選定することが望ましい」とアドバイスし、「異なる内容、異なるページ数の製本を、如何に確実に、高速で処理していくかが課題」と結んだ。

なお、プリプレス部門の講演の前に鳥原久資副理事長、プレス部門の講演の前に細井俊男副理事長、ポストプレス部門の講演の前に岡田邦義副理事長の3氏が挨拶に立ち、「講演をしっかりと聞いていただき、一つでもためになるものを持ち帰り、今後の仕事に活かしていただきたいと思います」と期待を表明した。



「あいちの産業廃棄物」 廃棄物処理計画策定調査結果の概要

発生状況(業種・種類・地区別)、処理処分状況(概要、種類別最終処分、業種別・種類別処理処分、発生量)

愛知県環境部資源循環推進課では、この程、「あいちの産業廃棄物—廃棄物処理計画策定調査結果の概要—」をまとめた。

調査結果では、産業廃棄物の発生状況(業種別、種類別、地域別)と処理処分状況(処理処分状況の概要、種類別の最終処分状況、業種別、種類別の処理処分状況、発生量などの推移)などが、説明されている。

冊子の冒頭には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、都道府県は『廃棄物処理計画』の策定が義務付けられており、本県では、平成18年度に策定した『愛知県廃棄物処理計画』(計画期間：平成19年度～平成23年度)に基づき、廃棄物の減量化・資源化などを計画的に進めるために、新たに『愛知県廃棄物処理計画』を策定することとしています。この計画策定に

必要な産業廃棄物に関する基礎データを収集する目的で、平成21年度における県内の産業廃棄物の発生・処理などの状況に関する『愛知県産業廃棄物処理計画策定調査』を平成22年度に実施しました。この冊子は、その調査結果の概要をまとめ、本県における産業廃棄物の状況を知っていただくために作成したものです」と、刊行の言葉が添えられている。

【発生状況】

平成22年度に実施した「愛知県廃棄物処理計画策定調査」により、平成21年度に愛知県の工場、事業所などから発生した産業廃棄物は17,800千トンと推計される。

【業種別の発生状況】

製造業が8,455千トン(47.5%)で最も多く、次に、建設業が4,838千トン(27.2%)、農業が2,504千トン

(14.1%)発生しており、この3業種で全体の88.7%を占めている。

【地区別の発生状況】

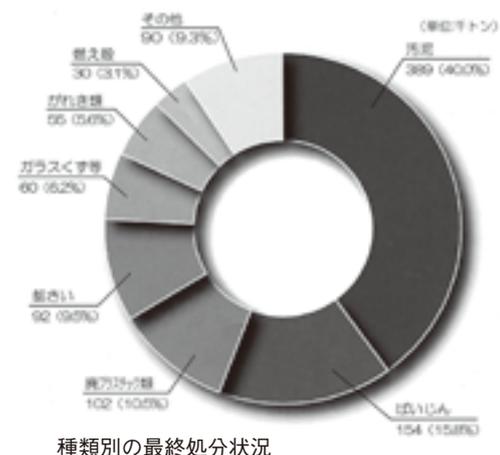
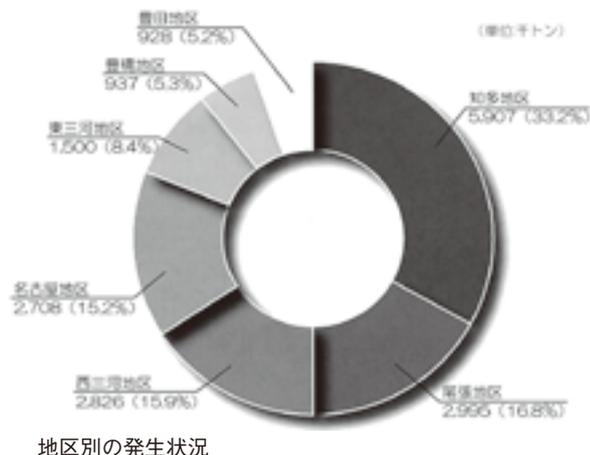
知多地区が5,907千トン(33.2%)で最も多く、次に、尾張地域が2,995千トン(16.8%)、西三河地区が2,826千トン(15.9%)、名古屋地区が2,708千トン(15.2%)などとなっている。

【処理処分状況】

発生した17,801千トンの処理処分状況を見ると、排出事業者または産業廃棄物処理業者によって13,498千トン(75.8%)が資源化されている。

【処理処分状況の概要】

(i)資源化量は13,498千トンで、資源化率は75.8%となっている。種類別にみると、がれき類が3,501千トン(資源化量全体の25.9%)で最も多く、次に、紙くずが3,357千トン(24.9%)、



金属くずが1,935千トン（14.3%）などとなっており、資源化の用途は、がれき類、鋳さいは建設材料など、金属くずは金属材料などとなっている。

(2)減量化量は3,331千トンで、減量化率は18.7%となっている。木くず、灰プラスチック類などの一部は再生利用されず焼却処理により減量化されている。

(3)最終処分量は972千トンで、最終処分率は5.5%となっている。種類別に見ると、汚泥が389千トン(40.0%)で最も多く、次に、ばいじんが154千トン(15.8%)、排プラスチック類が102千トン(10.5%)などとなっている。

**日印産連／GP資機材認定製品を追加
プレートクリーナーの試行開始**

(社)日本印刷産業連合会（猿渡智会長）では、環境に配慮した印刷工場・印刷製品・印刷資機材の総合認定制度であるグリーンプリンティング（GP）認定制度を開始する。

GP資機材認定制度は、印刷会社が購入・使用する資機材を環境配慮基準に基づき認定する制度。現在、オフセット印刷工場で使用使用する洗浄液、エッチ液、現像機、プレート、製版薬品（現像液）の5種類の認定を行っており、認定製品は226製品に及んでいる。認定製品には、環境配慮の度合いに応じたGPマークを表示すると共に、認定製品と環境配慮内容の一覧表を日印産連ホームページに掲載。

今回の措置は、GP資機材認定製品として「プレートクリーナー」を追加したもので、平成24年4月から正式に実施する予定となっている。



絵部門
作品タイトル「なんでも印刷機」のある生活
前野あい

作文部門
作品タイトル「未来の印刷」
大木泰雅



**Print Next 2012「未来の印刷」大賞
絵／作文部門最優秀賞決まる**

Print Next 2012 運営委員会が主催した「未来の印刷」大賞に、全国から56点の応募があり、その中から最優秀賞に、絵部門では、前野あいさん（11歳）、作文部門では、大木泰雅さん（12歳）の作品が受賞した。表彰式は、2月4日Print NEXT 2012

の式典の中で行なわれた。絵部門と作文部門に全国の小・中学生から56点の作品が寄せられた。いずれも、意表をつくアイデアや楽しい夢が表現されている。（作品はPrint NEXT 2012の公式ホームページで公開されている）。

四六半載
OLIVER 480SD/SDP

さらにグレードアップ!!

究極まで追求した
最新テクノロジーを随所に採用し、
更なる高品質・高生産性を実現。

本社 TEL: 03-3643-1131 FAX: 03-3643-1138
中部営業所 TEL: 0575-35-2551 FAX: 0575-35-2887
大阪営業所 TEL: 06-6308-6651 FAX: 06-6308-6679
九州営業所 TEL: 0921-741-2672 FAX: 0921-741-2670
岐阜工場 TEL: 0575-33-1360 FAX: 0575-33-1346

オリバー480SD
四六半載4色印刷機

全日本印刷工業組合連合会・産業戦略デザイン室

「成長戦略総合支援プログラム」(商工中金)の創設

全印工連産業戦略デザイン室では、今年度M&A事業・業界CSR認定事業・マイ外展開事業・アライアンス事業に取り組んできた。これらの事業の内、アライアンス事業の一環として、この程、商工中金とタイアップした「成長戦略総合支援プログラム」を創設。2月20日よりスタートした。

■成長戦略総合支援プログラム(商工中金)の概要

本プログラムは、各組合員の企業価値向上への取り組みを商工中金が全面的にバックアップするもので、主な内容は以下の通り。

(1)成長戦略総合支援プログラムとは

①新成長戦略計画の策定を支援/計画策定段階で、資金計画など金融面の相談や各種コンサルティングサポートなどを行いながら組合員の立場に立った計画策定支援を行う。

②計画認定/商工中金の「成長戦略企業認定委員会」などで認定を行う。

③計画実行支援/計画を実施する上で必要となる資金については、低利融資制度などにより金融面でのサポートを行う。

※③で、商工中金から融資を受けるには別途審査がある。審査には時間を要する場合がある。審査の結果によっては希望に添えない場合もある。

(2)対象企業

成長戦略分野で成長を目指す組合員企業。

〈成長戦略分野〉

環境・エネルギー事業、高齢者向け事業、コンテンツ・クリエイティブ事業、観光事業、地域再生、都市再生事業、農林水産業・農工商連携事業、雇用支援・人材育成事業など、政府の「新成長戦略」「産業構造ビジョン2010」、日本銀行「成長基盤強化に受けた取り組み」を受けて、様々なソリューションプロバイ

ダーへの取り組み(業態変革)を通じて成長を目指す組合員企業の事業。

例：省エネを行う場合→環境・エネルギー事業
社内体制の強化を行う場合→人材育成事業
高齢者の活用→雇用支援事業

(3)成長戦略支援制度など融資利用のフロー

①組合員企業が商工中金の最寄の支店へ本支援プログラムの支援を依頼。※商工中金の各支店の窓口は融資担当者。

②商工中金では、支援の依頼があった組合員企業の策定支援などサポートを行う。成長企業と認定された場合は、組合員へ認定された旨連絡。

③計画に基づく資金が必要な場合、商工中金は審査と同時に支援依頼があった組合員企業が、組合に所属しているか各工業組合へ確認を行う。

④各工業組合では、その企業が組合員であるかを確認し、商工中金へ回答する。※組合員企業が始めて商工中金から融資を受ける場合、包括同意書の提出が必要となります。すでに取引のある組合員企業は、電話や証明書などで組合所属を確認する場合がある。(包括同意書及び証明書は、商工中金所定の用紙)

(4)担保・保証人

〈担保〉

資金使途や組合員企業の財務状況など総合的に判断される。※設備資金は、原則、担保設定が必要となる。

〈保証人〉

原則、代表者の方の連帯保証人が必要。

(5)利率

商工中金所定の利率で、組合員企業の財務状況や担保などにより総合的に判断。

※新成長戦略計画の策定から商工中金のサポートを受けられることが、このプログラムの最大のメリット。

KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

コニカミノルタに全てお任せください。

自校正

Digital Konsensus Premium Ultimate Edition

Folbaid AQUA

デジタル印刷

bizhub PRESS C7000

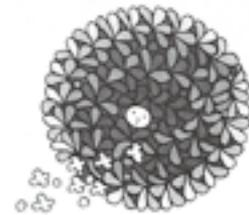
環境対応のフラット

ケミカルレスCTPシステム

BLUE EARTH

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社 デジタルイメージング事業部 中部支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-15 三井住友海上ビル5F TEL. 052-229-4624(代)

第3回ポスターグランプリ 募集要項



愛知県印刷工業組合・愛知県印刷協同組合・岐阜県印刷工業組合・三重県印刷工業組合では、第3回ポスターグランプリコンペティションを実施いたします。将来のグラフィックデザイン業界を担う学生、生徒がその能力を伸ばす場として活用していただくとともに、若い感性による印刷産業界とデザイン関連業界の発展に資するものです。

作品規定

対象／ポスター

テーマ／近未来の「日本」へのメッセージ

あなたがイメージする近未来の日本、自由な発想でメッセージを伝える作品(ビジュアル、キャッチコピーを含む)を募集します。

応募資格／個人を対象とします。

愛知県、岐阜県、三重県在住、または同3県内の大学(大学院、短期大学を含む)、専門学校、高等学校(高等専門学校を含む)に在籍している学生・生徒

応募部門／●大学生・専門学校生の部 ●高校生の部

応募作品／未発表の作品・一人1点・印刷可能なものに限る

手書き又は電磁媒体(CG)によるもの・色彩表現は自由

サイズ／●大学生・専門学校生の部／B1判 ●高校生の部／B2判

両部門とも、縦型・発泡パネル仕立て

出品料／無料

提出／応募用紙に所属学校名、氏名、作品のポイント等必要事項を記入し、作品裏面の上部中央に貼付して提出してください(送付、持込みのいずれでも可)。なお、入賞・入選作品についてはデータの提出(CD-ROM)をお願いする場合があります。

※応募作品は返却いたしません。

※応募作品に関する著作権は応募者に属しますが、ポスターグランプリに関する広報・記録に使用する権利は主催者に帰属します。

応募期間／平成24年8月20日(月)～平成24年9月5日(水) 必着

授賞と副賞

グランプリ(最優秀賞)／1名(賞金10万円)

優秀賞／各部門3名以内(賞金2万円)

中部経済産業局長賞、愛知県知事賞、岐阜県知事賞、三重県知事賞、名古屋市長賞、愛知県教育委員会賞、岐阜県教育委員会賞、三重県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、中日新聞社賞、中部デザイン団体協議会賞、全日本印刷工業組合連合会会長賞、愛知県印刷工業組合理事長賞、岐阜県印刷工業組合理事長賞、三重県印刷工業組合理事長賞／各1名(Web Money 5千円)

協賛会社賞／若干名(Web Money 5千円)

※上記副賞に加えて、入賞者全員に「入賞・入選作品集」を贈呈します。

※上記各賞の他、入選作品(若干数)を選出し、「入賞・入選作品集」を贈呈します。

審査

主な審査基準／①テーマを的確に表現していること ②ポスター機能としてのメッセージ性に優れていること ※キャッチコピーも審査対象とする。③斬新な発想とアイデアにより独自の新規性を有すること ④ポスターデザインの観点から、見やすさにおいて優れていること
以上を中心に、総合的に勘案し審査する。

審査委員長／高北幸矢 [高北デザイン研究所 代表]

審査委員／新家春二 [(株)新家デザイン室 代表]

落合紀文 [落合デザイン研究室 代表]

山崎 晃 [(株)山崎デザイン事務所 代表]

安藤禮市 [(株)アド・パブリシティ 代表]

安藤 清 [中部デザイン団体協議会 会長]

高井昭弘 [愛知県印刷工業組合 理事長]

四橋英児 [岐阜県印刷工業組合 理事長]

塚本征也 [三重県印刷工業組合 理事長]

堀井俊男 [愛知県印刷工業組合 副理事長]

入賞・入選発表／平成24年9月下旬

※入賞・入選者本人(希望により在籍学校)に通知するとともに、愛知・岐阜・三重の各県印刷工業組合ホームページ及び組合広報誌に掲載します。

※入賞・入選作品は「入賞・入選作品展」で展示します。

第3回ポスターグランプリ展(入賞・入選作品展)

日程／平成24年10月16日(火)～21日(日)

午前10時～午後5時(最終日は午後3時まで)

会場／愛知県美術館ギャラリー 展示室E・F

[愛知芸術文化センター8階]

名古屋市東区東桜1-13-2 TEL/052-971-5511

入賞者表彰式

日程／平成24年10月21日(日) 午前10時30分開会

会場／愛知芸術文化センター アートスペースA(12階)

名古屋市東区東桜1-13-2 TEL/052-971-5511

応募・問い合わせ先

愛知県印刷工業組合内 ポスターグランプリ係

〒461-0001 名古屋市東区泉1-20-12 メディアージュ愛知1階

TEL/052-962-5771 FAX/052-951-0569

e-mail/jimukyoku@ai-in-ko.or.jp

本件詳細は、愛知県印刷工業組合のホームページをご覧ください。

<http://www.ai-in-ko.or.jp/>

訃報

西川コミュニケーションズ(株) 西川一男氏 逝去

西川コミュニケーションズ株式会社社会長西川一男氏（愛知県印刷工業組合・元理事長、顧問）は、3月14日行年100歳の天寿を全うし逝去された。3月16日近親者にて密葬が行われ、3月26日午後2時より名古屋市千種区「いちやなぎ中央斎場、春夏秋冬の間」において、告別式が社葬により執り行われた。

告別式は、西川輝男代表取締役社長が務めた。弔問には、故人の生前の遺徳を偲び、多数の人が訪れ、最後の別れを惜しんだ。

西川一男氏は、大正2年5月14日名古屋市東区東門前町で生まれ、昭和34年3月印刷企業経営のかたわら中京大学商学部商学科を卒業。昭和6年4月名古屋市東区東桜において、父の経営する西川印刷所において家業を継承すべく、印刷技術並びに企業経営習得のため入社。昭和15年2月西川印刷所代表者に就任。昭和24年12月西川印刷所を株式組織に変更、代表取締役に就任し、以来一貫して堅実経営を方針に掲げ、諸官庁・公社・著名会社の出入指定を受け、企業の発展に努め、中部地方における代表的印刷会社として現在に至っている。

この間、昭和22年1月愛知県印刷工業協同組合評議員を振り出しに、昭和24年8月愛知県印刷協同組合理事、昭和30年4月愛知県印刷工業調整組合（現愛知県印刷工業組合）理事に就任、以来長期間にわたり組合運営に尽力し、その卓越した手腕をかわれ愛知県印刷工業組合常務理事などを経て、昭和53年5月同組合理事長に就任、2期4年間にわたり務め、氏の指導統率力とその功績は関係者から高く評価されている。



また、昭和37年5月から昭和53年5月までの16年間、全日本印刷工業組合連合会監事、昭和53年5月より同連合会副会長、東海北陸地区印刷評議会会長及び愛知県県連団体協議会会長、同年6月全国印刷工業健康保険組合理事・東海支部長、翌昭和54年6月東海印刷工業厚生年金基金理事長など、各種の印刷関連業界団体役員の大要職を歴任し、業界の振興発展に尽力した。

一方、地域経済界にあっても、名古屋商工会議所議員、同印刷工業部会長、愛知県中小団体中央会監事、同副会長などを歴任。他方、長年にわたり名古屋市千種区保護司、名古屋地方裁判所調停委員、司法委員、名古屋市千種区少年補導委員会委員の公職を務め、幾多の難関を根気強く解決し、犯罪の予防と更生保護、民事調停、少年の非行防止など地域社会の浄化に意を注ぎ、明るい社会の建設に大きく貢献している。さらに、社会団体千種会副会長、千種交通安全協会会長、千種郵便協力会会長などの要職を歴任するなど、その活躍は広範多面にわたって顕著な成果を収めた。

これらの功績により紺綬褒章、藍綬褒章はじめ、昭和61年春に勳四等瑞宝章など関係大臣、諸機関の長から、表彰状、感謝状を受賞するなど、その活動と功績は広く賞賛されることである。

事務局だより

■春の訪れが遅いのか、この地方の開花予報は聞かれませんが、1日1日暖かさを感じるようになってきました。新しい印刷会館に移り1ヶ月あまり、まだ落ち着かないところもありますが、「メディアージュ愛知」の名前にも馴れ、職員一同頑張っております。お近くにおいでの際は是非お立ち寄りください。

あいの印刷

No.485

平成24年4月10日発行

発行人 高井 昭 弘
編集 組織・官公需委員会
発行所 愛知県印刷工業組合
〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目20番12号
TEL 〈052〉962-5771
FAX 〈052〉951-0569

◆ホームページアドレス <http://www.ai-in-ko.or.jp/>
◆E-mailアドレス jimukyoku@ai-in-ko.or.jp